

## 第7回脱炭素ワーキンググループ

### 議事録

日時：2017年12月8日（金） 13:00~16:00

場所：虎ノ門ヒルズ9階 TOKYO 会議室

出席者：藤野座長、枝廣委員、小西委員、白井委員、三浦委員

勝野オブザーバー、飯野オブザーバー

※本議事録では、ワーキンググループを「WG」と記しています。

- 事務局：皆さま、本日はご多用の中お集まりいただき、誠にありがとうございます。定刻になりましたので、第7回脱炭素ワーキンググループを開催いたします。本WGはメディアの皆様にも公開とさせていただきます。カメラ・スチールの皆様は冒頭撮影のみとさせていただきますが、ペン記者の皆様は会議傍聴可能とさせていただいておりますのでよろしくお願いいたします。本日は藤野座長をはじめ総勢7名の委員及びオブザーバーにご出席いただいております。また、組織変更があり、12月1日付けで持続可能性部は大会準備運営第一局から総務局へ移管したことをご報告させていただきます。組織変更に伴い、局長が井上局長から手島局長に交代、また同日に横山担当部長が着任されました。それでは、手島局長より一言、ご挨拶を申し上げます。
- 事務局：初めまして、手島でございます。12月1日付で組織改編がございまして、持続可能性部は大会準備運営第一局から総務局に移管されました。メンバーは丸ごと移管されております。総務局に参りましたのも、これから持続可能性は大事なことでございますので、これから横の連携も含めて我々総務局がグリップして行うこととなりましたので、今後ご指導の程よろしくお願いいたします。
- 事務局：それでは、開会に当たりまして藤野座長より一言ご挨拶をお願いいたします。
- 藤野座長：まさに今、手島局長様からご挨拶があって、サステナビリティの位置づけを1段上げて横串を通すということで、2020年まで限られた中ですが、言いたいことを言って、良いものにしていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。
- 事務局：藤野座長、ありがとうございます。それでは、プレスの皆様、冒頭撮影はここまでとなりますので、よろしくお願いいたします。それでは、以降の議事進行につきまし

ては、藤野座長にお願いいたします。

- 藤野座長：それでは、議事次第と配布資料の説明も含めて、議事1のWGの振り返りをお願いいたします。
- 事務局：資料2を基に、前回WGの振り返りについて説明
- 藤野座長：前回の議事録について何かありますか。よろしいですか。特になければ、次の議事2の運営計画第2版気候変動パートについてという所に移りたいと思います。
- 事務局：資料3のP1~P6に基づいて、気候変動のゴールと取り組みの優先順位について説明
- 藤野座長：ありがとうございます。では、1と2及びその前の所も入るかもしれませんが、ご意見いただけたらと思います。いかがでしょうか。
- 小西委員：今回、本当はCFPが出ると思っていたので、出てないことの遅れが気になります。今後、暫定数値でいいので、なるべく早く出た方が検討が進むと思いますので、今後の見通しを聞かせていただければと思います。
- 事務局：CFPにつきましてはこれまで算定を進めておりまして、活動量、原単位について精査を引き続きしているところです。どこかの段階で我々も第2版に向けてここまでと決めていかないといけないのですが、まだ大会の中での活動量や原単位を精査しているところもありますので、もう少しお時間頂ければと考えております。
- 小西委員：これは3月までにIOCに提出する第二版ですよね。
- 事務局：はい。
- 小西委員：今の段階で出ていないとなるとパブコメのスケジュールなども気になるのですが、IOCへの計画の提出期限が変わったとかいうことはあるんですか。
- 事務局：前回のDGの中でもパブコメは2回しましょうという意見もありましたので、まずは骨子のところでパブコメを行いつつ、第二版が固まってきたところでもパブコメを考えています。そういったところの対応も進めながら、CFPも出していきたいと思っております。

- 小西委員：何がネックになって出てこないのでしょうか。
- 事務局：CFP は幅広く数値を見ないといけませんので、その精査に時間をかけていますが、作業の方は着実に進めているところでございます。
- 小西委員：作業が進んでいることに疑いは持っていないのですが、数字は変わっていつて当然だと思います。バウンダリや原単位を精査していくうちに数字が変わるのは当然だと思いますので。単位が変わるほど精査が進んでないなら別ですが、そうではないと思いますので、是非早く出してほしいと思います。いつごろ出ますか。
- 事務局：年明けになってしまうと思いますが、最初の数字ですので丁寧にやりたいと思っております。数字が変わるのは当然ですが、最初の数値は丁寧に出させていただきたいと思っております。
- 藤野座長：これをあてにしていたので、本当に年明け早目でしょうか。それに合わせてWG もやらないといけないでしょうから。これは丁寧にやる必要がありますが、時間がないので、多少大胆にならないと間に合わないかなと思います。他にございますか。
- 小西委員：zero carbon ですが、これまでも zero carbon を目指すということは合意されていると思うのですが、あとは文言だと思います。資源循環の zero wasting というのは意思が出ていますと思いますので、私としては zero carbon が toward zero carbon か、何の言葉がいいかは別にして zero carbon だけというのは避けたいと思っています。特に最後の相殺のところではいたずらに無用なバウンダリの議論や本質的にオリンピックのレガシーとして特に影響のないところで物議を醸すことになるので。パリ協定に向けてゼロに向かう途中のオリンピックということで、ING が入るといいと思います。
- 藤野座長：カーボンに ING を付けたケースは見たことがありませんが、意味的には toward zero carbon というのが小西さんの意見だと思いますが。
- 小西委員：そうですね。
- 藤野座長：カッコいい英語がいいですね。
- 三浦委員：他に使っている可能性はないのでしょうか。

- 小西委員：前は road to zero carbon がいいと思っていたのですが、企業と一緒にとの意見がありました。
- 三浦委員：小西先生がおっしゃる通り、zero carbon だけでは一般の人が何を言っているか分からないので、zero carbon が何を意味しているかを一文くらいで、方向感分かるようなサブタイトルが必要だと思います。おそらく、それを議論していただきたいということだと思います。例えば1案として toward zero carbon がいいのか。
- 事務局：三浦委員のおっしゃる通り、zero carbon は zero carbon で、説明書きとして下に記載する方法もあると思います。
- 三浦委員：あまり長いと読んでもらえないので、英語にすることも含めて1文くらいになると分かりやすいと思います。toward じゃなくても我々がこういうのを目指しているということでもいいと思います。
- 事務局：マスコミが発信する時は短いものから伝わっていきますが、それだけだと分からないので副題が下についている形もあると思います。
- 藤野座長：そのあたりどうですか。
- 小西委員：前回の資料で書かれていたものはコンパクトにまとまっていたと思います。
- 事務局：第6回の際は、zero carbon の下に考え方を日本語で3行出しておりました。パリ協定を受け世界が脱炭素社会を目指す中、パリ協定がスタートする2020年に開催されるオリンピックにおいて、その方向性・戦略を示し脱炭素化の礎を築くと前回示させていただきました。
- 小西委員：いいですけど長いということですね。
- 白井委員：英語の zero carbon に、日本語の説明があれば議論しやすくなるのでは。
- 藤野座長：やり方として、必ずしも英語と日本語が1対1で対応しないで分けることもあるのかもしれませんが。
- 小西委員：ここで直接のたたき台がないまま話しても時間かかるので、それぞれ作ってきて次回決めてはいかがでしょう。

- 藤野座長：DG に持って行くのですよね。
- 事務局：決まったところは DG に持っていくと思いますが、WG で揉んでいただいてもよろしいかと思います。
- 藤野座長：今の意見を反映して方向性としての zero carbon は皆さんが合意していると思うんですけど、それをどう表現するかが今の課題で、事務局がおっしゃったように zero carbon という言葉はシンボライズして、サブタイトルで入れていく。それもさっきの 3 行なのか 1 行なのか。日本語と英語は別に表現することもいいかもしれません。そういったところを議論している途中ですという話が DG に伝わったらいいのかもしれませんが。そうしたらアイデアをいただけるのかもしれませんが。大体そんなところですかね。パリ協定や脱炭素化のワーディングを日本語なり英語なり適切におり込んで、マスコミにも伝わりやすいメッセージに出来ればいいと思います。
- 三浦委員：配布資料の全体構成案ですが、気候変動の部分は議論されてないのでこういう書き方になっていると思うのですが、資源管理はワーキングで議論が進んでいて、zero wasting resource use になっています。これは zero wasting があつたうえで、もう 1 つのキーワードが zero wasting resource use で、さらにそれについて説明が入っているという理解です。そうだとすると同じような考え方でカーボンもやっていけばいいと思います。
- 事務局：前回 11 月に資源管理 WG をやっていて、その時に最終的な確定ということではありませんが、zero wasting resource use がワンフレーズで、今下についているサブ的な説明があるのが現時点の整理です。
- 三浦委員：zero carbon に対応するのが zero wasting resource use ですか。
- 事務局：そういう認識でございます。
- 小西委員：タイトルは独り歩きすると思うのですね。下に 3 行もつけられないと思うと、一言でニュアンスもあつて下に説明書きがあると良いと思います。
- 事務局：資源管理 WG でも、委員から資源に寄りすぎていないかという話もあり、まだまとまっていませんので引き続き議論が必要かと思います。

- 藤野座長：5 ページ目の表現の所で議論していて、委員の総意としては zero carbon に向けてという感じですかね。表現として zero carbon のままにしてサブタイトルの目指すとか、例えば脱炭素化の礎を築くとか。簡単なものを入れるか、ここを toward zero carbon としておいて意味を明確にするか。いくつかの表現の仕方があると思います。最終的には日本語と英語にしないといけないので、1対1の対応にするか、日本語は日本語で英語は英語で作るということもあると思いますが、そういったことを議論していると思います。
- 枝廣委員：タイトルそのものが独り歩きすると思うので、toward などを使って意味を明らかにした方がいいと思います。もしサブタイトルを付けたらインパクトがあるものを一緒に使ってほしいと思います。例えば zero carbon だったらサブタイトルとして toward and beyond とか、それくらいインパクトがあると一緒に使ってもらえると思いますが、説明書きを入れるとしたらタイトルに入れてしまった方がいいと思います。
- 藤野座長：それを頂けますか。toward and beyond。
- 小西委員：ちょうど 2020 年パリ協定スタートでいいのではないですか。
- 藤野座長：それで DG に出しましょうか。はまったような気がします。
- 小西委員：でも beyond とは何でしょうか。ゼロを超えるということでしょうか。
- 藤野座長：2100 年以降はマイナスだから beyond ですよね。
- 小西委員：少しジオエンジニアリングのにおいを感じたので。
- 藤野座長：ただ beyond を目指さないとパリ協定で議論されている目標は達成できません。
- 枝廣委員：私は、経済が発展しても CO2 が減っていくというものを想定していました。
- 小西委員：ゼロに向かって 2020 年が toward で beyond というのは分かりますが、zero carbon の toward and beyond はネガティブカーボンを最初から言っている気がして、ネガティブカーボンは今センシティブだからオリンピックで言うのは厳しいですよ。toward zero carbon は単に資源循環の zero wasting と合わせてゼロに合わせたら綺麗に

なるということで揃えたんですけど。もし資源循環もこれから考えるのだったら、うちも素直に toward zero carbon でいいのではないですか。

- 枝廣委員：それが素直だと思います。
- 白井委員：いくつか案を持ち寄るのがいいかもしれないですね。
- 藤野座長：今の beyond を入れるとネガティブカーボンにつながるのではという懸念も書きつつですが、まだ固められないような気がします。議論をちょっと補足するような形で今日出た意見を1枚に収めてもらってまた DG で意見もらうスタンスはどうですか。小西さんそれでいいですか。
- 小西委員：それでいいと思います。方向性の共有は出来ていると思うので、後は表現の問題だと思います。
- 藤野座長：事務局的にはそれなりのインパクトを持たせつつも間違っって伝わらないようにすることがカギだと思います。6 ページ目についてはいかがですか。
- 三浦委員：取り組みの優先順位は、回避・削減・相殺という順番の事を言っているという理解でいいですか。カーボンマネジメントは全体に係る話で、CFP の把握が一番なのは間違いないのですが、それはカーボンマネジメントのスタートという意味で大きく言うとカーボンマネジメントの中にフットプリントの管理が入っていますよね。全体の中にフットプリントが入っていて、マネジメントが下ではないということを確認させていただきたいと思います。
- 事務局：事務局の考え方は、カーボンマネジメントは基盤なので下に置いていて、優先順位を示しているものではありません。優先順位は回避・削減・相殺という意図で作っています。
- 小西委員：カーボンマネジメントは全体にかかるとは思いますが、回避・削減・相殺の下に報告とレビューがあると思います。検証としてしまうと重いと思います。レポートにまとめて報告して、レビューを受けるとは思います。
- 藤野座長：報告とレビューはカーボンマネジメントの中に入っていますか。
- 小西委員：カーボンマネジメント全体には入っていて一番下に報告とレビューが入っ

ていると思います。

- 藤野座長：報告とレビューを書くとしたら具体的にどんなことを書きますか。報告とレビューはどんなレベルですか。
- 小西委員：6 ページの現状把握・対策・管理の項目の下に事後が加わると思います。オリンピックが終わった後に事後報告と検証をしますというような。事務局が言っていた管理は、こういう意味合いだと思いました。
- 枝廣委員：回避策や削減策の管理が難しいと思います。
- 事務局：14 ページ目に関連しますが、このページを説明しますと、ISO 取得に向けて体制を作る中で、気候変動部分でもマネジメント体制を作っていきます。マネジメントするということは役割分担を明確化して、どれだけ対策ができているか確認して対策するということだと思います。PDCA の順に時計回りですが、Plan としては、どういう計画で情報収集はいつ頃やるのか、それはどのような役割になっているか。大会における気候変動の役割分担を Plan で定めていきます。Do のところでは計画に沿って実施していくこと。Check では対策の進捗状況確認や CFP の更新を適宜行います。確認する中で課題も出てくると思いますので、課題がどこに出てくるか確認するということで Action に移って課題に応じて改善策を行います。また施策がよくなるようブラッシュアップしてマネジメントを作っていきます。
- 藤野座長：パーツを見てから全体の画を考えた方がいいかと思いますが、どうですか。それでは資料の 7 ページ目から説明をお願いいたします。
- 事務局：資料 3 の P7~最後までを用いて、気候変動の目標と指標案について説明
- 藤野座長：ありがとうございます。ご意見、ご質問をお願いします。
- 枝廣委員：9 ページもそうですが主要な指標を具体的に出してくださって、非常に分かりやすかったです。対策をどこで取るかということで 2 つ質問です。1 つは数値化できない大事な取組みが指標だけとったときに落ちないかということと、もう 1 つは対策もしくは指標の網羅性を私たち 3 人で検討するのも 1 つですが、もっと出来ることが落ちていないか、どういう風に作られたかということと、フィードバックする時にその問題性をどう高めていったらいいでしょうか。



- 事務局：定性的な取組が落ちないかということですが、今の指標に上げている中にも定性的な取組が結構含まれていまして、例えば電力のグリーン化率はパーセンテージになると思っています。パッシブデザインを導入した施設とありますが、これは 3 会場ですとありますといった目標ではなくて、具体的な計画を立ててやりますといったところも指標として含めていますので、定性的なところも含めて指標の中に織り込んでいまして漏れないように書いているつもりです。網羅性の確認についてですが、立候補ファイルからフレームワークそして運営計画第 1 版というところで大会の中で気候変動に係るこういう取り組みをしていきますという所をベースに整理しているのが現状です。
- 事務局：パブリックコメントも行いますので、一般の方からご意見を頂けるかと思えます。
- 藤野座長：私の理解だとカーボンマネジメントの表を作って進捗管理できるようにしましょうというお願いはしていて、前回の WG でレイアウトは示していただいたんですが、これを全部載せるわけにはいかないもので集約しているものと位置付けておいていいのですか。
- 事務局：検討しているところですが、カーボンマネジメントの表として示したのは対策があって、役割などが入っていて、CO2 の計算が入っているものでしたので、連動しているものと思っています。
- 藤野座長：それはそれで作業は進んでいるという理解でいいですか。
- 事務局：今日は特に入っていませんが、それはそれで進めていかないといけないと思っています。
- 藤野座長：DG で脱炭素 WG のことを報告する資料を用意する際には入れていただいた方がいいと思います。
- 三浦委員：指標は定性的なものも入っているかと思いますが。あとは効果のところ。効果と指標とターゲットは混ざり合っていて難しいと思っていましたが、効果の部分が CO2 しか入っていませんが、レガシーになる効果など定性的なものが出てくると思います。12 ページで再生可能エネルギーが入っている部分は将来にわたってはエネルギーを使わないで済むというレガシーの効果もありますので、その辺も効果に入れていただいた方がいいと思います。

- 藤野座長：他の副次効果も幅広に書いておいた方がいいですね。
- 事務局：今仰っていただいたのは、数値的に表せるものがレガシーまで見るとあるということですか。
- 三浦委員：対策効果は数値だけではないということです。つまり CO2 量だけに限らないということです。レガシーの仕組みが出来たということも定性的なものとして入ると思います。
- 藤野座長：場合によっては全体の話になるかもしれないし、個別に入れられるかもしれない。
- 三浦委員：それが第 2 版で出せるのか、プログレスレポートにしっかり書いていくのかということはあると思います。ただ将来の発電量を見ると再エネとかは入りますよね。今の時点で書けそうなものについては定性的なものも拾った方がいいのではないかと思います。
- 藤野座長：やったことはやったと記載することとしましょう。
- 三浦委員：CFP の算定もしている中で対策効果に CO2 と書いてますが、ここでの対策を全て CO2 で出せるかということとテクニカルな問題も出てくると思っていますので、全てが CO2 に換算されて出てこないということは共通認識として持った方がいいと思います。そこを定性的に直すなどを考えた方がいいと思います。
- 藤野座長：マネジメントの表に CO2 のことが網羅されていたらいいと思いますが。これは気候変動対策の観点で全体を網羅したときに代表の取り組みとして 12 個あるという位置づけだと思います。そこはこういう整理で良いですか。
- 事務局：ここでしか対策効果の CO2 が出てこないという訳ではないと思っていますので、整理の仕方は検討します。
- 小西委員：どなたかが仰っていましたが、目標と指標の書き方で目標というよりは項目だと思います。これは細かい表を省略して書いているのなら分かりますが、目標なら例えば排出削減の部分で建設に際して省エネルギー技術を積極的に導入するなどは目標ではないと思うので、定性的に書くのであれば省エネルギー技術を最大限に導入した

施設の建設などがいいと思います。運営計画にも省エネルギーの最大限の導入を書いていますので、目標として書くならば言葉を書き替える必要があると思います。省エネルギー設備の高い機器の導入も促進ではなくて最大限の導入ですよね。恒久施設の再生可能エネルギーも導入ではなくて、出来れば100%とか数値が入った方がいいかと思いますが、最大限の導入にした方がいいと思います。再生可能エネルギーによる運営は100%と入れていいと思います。意外とこういう資料は独り歩きするので、目標と書くならば12個全部の言葉を書き替える必要があるかなと思いました。

- 藤野座長：その点は如何ですか。
- 事務局：SDGsのゴール・ターゲット・インディケーターという整理を見つつ、こういう整理をしていますが、もう少し検討させてください。
- 藤野座長：資源管理は今どういう感じですか。
- 事務局：今のこの表に比較的近いと思います。両方のテーマの整合が取れるようにやっていく必要があると思います。
- 藤野座長：後はDGで議論するところもあるのかもしれないね。
- 小西委員：12個はこのような感じかと思いますが東京都さんはこれでいいのですか。
- 三浦委員：このような感じだと思っています。
- 小西委員：対策効果の数値がいずれ入るという前提で運営計画の段階で対策効果まで入れて出しますよね。
- 藤野座長：勝野さんはいかがですか。
- 勝野オブザーバー：数字も入らないので、具体的なイメージが分かりづらいなと思っています。もう少し具体的な所をやっていただくとイメージが分かると思います。
- 藤野座長：そこがすごく怖くて第2版にどこまで書くのかということがあります。計画第二版は何合目まで来ているのですか。枠は前から議論していたのでいいですが。最後の所で時間がかかるかもしれない所があります。表現の方向性も最後まで書くのか、どこまでの方向感を持って書くのか。

- 飯野オブザーバー：ターゲット、インディケーターの関係は、国内的には分かりづらいのですが、国際的な流れには乗った方がいいですから、この機会ですDG s がどのような仕組みになっているか世の中に説明して中身が分かるように分析したらいいのかなと思います。
- 小西委員：どのように SDG s が当てはまっているのですか。
- 飯野オブザーバー：中身ではないゴール・ターゲット・インディケーターのことです。ターゲットはこういうレベル感で書くのが一般的だとすれば、これに則ったものを英語で説明して、日本語で書き替えるといいかなと思いました。
- 小西委員：ちょっとひっかかったのですが、SDGs は全世界を相手に開発程度が著しく異なって貧困に苦しむ人たちも含めての書き方なので、どうしても曖昧な書き方になってしまうと思います。でもこれは具体的に建物にどのような省エネ設備を入れるかといった話なので、具体性のレベル感が違うと思います。資源循環に合わせることも重要ですが、合わせていくというよりは脱炭素の考え方を打ち出したほうがいいと思います。第一版の運営計画で、最初は省エネの推進だったところを省エネ性能が高い設備の最大限の導入が小宮山先生の意見もあって入ったので、後退したような具体的な提案を出すのは、あまり意味がないと思います。定性的な書き方をするにしても、第 1 版の運営計画に沿った書き方にすべきだと思いました。
- 藤野座長：SDG s の日本語訳を読むと目標 1 はあらゆる場所のあらゆる貧困を終わらせるというかなり明確な方向性があり、ターゲットも 2030 年までに現在 1 日 1.25 ドル未満で生活する人々と定義されている極度の貧困を終わらせるということが記載されています。11 ページ目の 5 番でも省エネルギー性能の高い設備の導入促進というのは、第 1 版の表現にならうと最大限導入という話になって、具体的に主要な指標が決まって、対策効果もそれに基づいて評価されるという意味合いではないかというご指摘ですか。前に議論したという意味ですよ。
- 小西委員：はい。
- 藤野座長：ゴール・ターゲット・インディケーターのいいところだけ取って表現するのは、SDGs をいのように使っているところがあるので、そこは気を付けていけないといけないですね。第 1 版から後退しているならその理由を書かないといけないと思います。

- 小西委員：後退はないですよ。
- 藤野座長：仮に後退があったらという意味です。いきなり後退していたら、無視してはダメという意味です。
- 勝野オブザーバー：これには効果などの見えない対策が一杯あるんですね。
- 藤野座長：おっしゃったように 11 ページ目の 4 番の東京都建築物は段階 3 の評価を目指す施設が書いてあるのならば、いくつの施設のうち、いくつが実現できたとかを記載したほうが分かりやすいと思います。

枝廣委員：CFP の値が出ていないから議論が出ていないのかもしれませんが、CFP 全体でみた時に何パーセント回避をして、残ったものの中で削減して、さらに削減して残ったものに対してはオフセットを充てていくという流れにおいて、カーボンマネジメント全体の対策に対する評価がきまってしまうということですよ。そうでないと対策を挙げて、施設の実績を 3 つ 4 つやりましたといっても、必要性が高ければもっとやるための方法を考えないといけないし、最大努力で出来たものだけカウントして削減効果を出すのではないと思っています。立て付けはどうなっていましたか。それぞれ何割ずつとか。まだ CFP 出てないから評価できないという話だったかと思っています。

- 藤野座長：その辺りいかがですか。
- 事務局：おっしゃるとおり CFP が横にないと議論しにくいところだと思います。数値でここまで CO2 を下げるといよりは、活動を明確にするのが第 2 版で決めないといけないことと思っております。指標の部分ではどの施設で何をやって、どのようなものを調達するのかという具体的な施策をより明確にしていくのが主ではないかと考えています。
- 枝廣委員：第二版で CFP は出しますよね。それに対する削減目標は第二版には記載していくのですか。
- 事務局：削減目標とするかどうかは議論がありますが、BAU の段階からどう変わるかは見えてくるかと思っています。
- 枝廣委員：どう変わるかと、どう変えるかは違っていると思っていて、出来ることを積み上げるとこれくらい減りますとか、これくらい減らすためにこのような施策をやり

ますとか。物語のストーリーの順番が違っていると思います。この辺は第二版ではどう出しますか。

- 藤野座長：その通りだと思います。そのようなアプローチをとらないと計画を作る意味がないということですよね。自分が数字作る立場なら目指す数字を作っても結局、現場が動かないということが頭にあるのなら重くはなりますよね。でも計画としてきちんと謳って書かないといけないのかは議論したほうがいいと思います。
- 枝廣委員：私は目標を掲げてそれに向かって削減していくことが必要だと思っています。もちろん現状と削減効果を行ったり来たりすると思うのですが、目標があって対策が決まってくるのが普通だと思いますので。ゼロを目指すと言っているからには。
- 藤野座長：個人的に悩ましいのは目標を立てるにあたっての必要十分な情報がないことです。20%省エネ・再エネと言っても裏付けがなくなるので。そこに関しては議論が抜けているなと思いました。
- 枝廣委員：最初の考えだと第2版はCFPの現状と目標と対策が書かれると思っていて、そのために議論している訳で、遅れているなら1~3月忙しいけれど、それをやらないと第二版出したときに現状はこうです、こういうことをやっていきます、この結果これくらい減らせそうですというのがとても弱い気がします。3月にその作業をやって第2版出さないと間に合わないと思います。
- 藤野座長：それを鑑みてのCFPの進捗状況はどうなっていますか。
- 事務局：まずは、削減効果の前にCFPをちゃんと出してお示しするところと、対策によって数値が具体的に出せるもの、出せないものがあると思っているので、出来るだけその数字も出しながら議論していただく必要があると思います。ここは1月・2月・3月のWGでも議論していただけるように検討します。
- 藤野座長：BAUは普通の対策をした場合ですが、今すでに行われている努力は見えるように比較できる状態での数字づくりは意識してやっているか確認したいと思います。あと今計画している物から後2年頑張ればさらに減らせるものがあるのかどうか。今の予定でやっているものでBAUよりどれだけ削減できるかということと、後2年間の努力で減らしうる要素があるのかどうか、ここまでの整理を2月3月の間にできるのでしょうか。

- 枝廣委員：あと、今年度末に出す第 2 版のイメージもすり合わせた方が良くて、BAU は出ると思いますが、それに基づいた削減効果も出るのですか。もう 1 つは BAU が出していないというのは、CFP の計算は部分ごとにやるとと思いますが、どこかで引っかかっているとしたら、ある程度確かだなというところから計算を始めてもよいと思います。引っかかって出ないところがあれば、それは後出しでいいので確実なところから数値と対策効果を出して、さらに何ができるか。その議論をしないと第二版の議論があまり出来ないまま出版されてしまうと思います。
- 藤野座長：その辺りは作業している方の相談もあると思いますが、想像だけの議論は限界が来ていると思います。
- 小西委員：今回出る CFP は現状で出すのですか。オリンピックの仮設を作ることを含めて出すものが CFP だとすれば、それが BAU だと思うのですが。
- 事務局：置き方は検討しないといけませんが、BAU は何も対策がなされないという意味で捉えていて、東京大会が効果のあることをやりますといったところは削減効果として出てくると考えています。
- 小西委員：そこは最初からおり込んだ数値が出てくるということですか。
- 事務局：それを BAU とは呼んでいません。BAU というのは何もしていない前提で出すフットプリントですので。そこから何かをすれば削減されるということですか。
- 小西委員：そうするとどこをベースラインにするのかなと思いました。
- 事務局：ロンドンで言えば 345 万 t が BAU で対策を講じなかった所から 40 万 t の CO<sub>2</sub> を削減しました。東京大会も同様にまず対策を講じなかったところの BAU を計算しつつ、施設建設を反映した部分も同時並行的に計算しています。現時点で議論するとなると BAU とある程度進んだものの二つが見せられると思います。特に東京大会においては戦略的に既存施設を活用したことが肝なので、それをしっかりと見せられるようにしていきたいと思っています。
- 小西委員：ちょっと混乱しまして。立候補ファイルの時点から会場を見直した時点、そして対策を講じたもの、その差を目標にするということですかね。
- 事務局：全部入れたものが目標になります。

- 小西委員：ロンドンの場合は 40 万 t だから 40 万 t は確保しないといけないのでしょうか。パリではロンドンを横引きで 55%削減するという形で立候補ファイルを出しているようですので。数字が出てこない、もはやこういう WG やってても進まない気がします。CFP を出される段階で目標がおり込み済みの数値が出てくると、単にこの WG は後追いで数値を確認するだけだと思います。本来 BAU と比べた数字を出す段階から議論することを WG でやらせていただきたいと思います。
- 三浦委員：前からこの議論はあって、確かに CFP は何のためにやるかという、どこに排出があって、どこにインパクトがあってどこをターゲットにするかを見ながら進めていくためのもので、これだけ減らさないといけないという所からバックキャストイングして対策を打っていくというのが本来の姿ですが、現時点でそれが本当に現実的なのかなというところはあると思います。中々 CFP が出ない中で対策をしっかりとやっていくべきではないかという議論をしてきたと思っています。今何 t 減らすというバックキャストイングを作るのは相当現実性がないと難しいと思います。費用対効果も考えると、無理なものを求めていくのかということになると思いますので。それぞれの FA が自分たちがどれだけ出しているか知ることインパクトになると思います。自分たちの活動が CO2 という形で表に出てくるという理解になると、何かしないといけないという意識にはつながると思うので、少なくとも CFP を算定している意義はあると思っています。それを見える化して対策を考えてもらうことが削減と思わないといけないと思います。今決まっている対策でどこまでできるかもある程度は出るとは思います、全部は無理だと思います。さらにもう少し頑張れるところがあるならそこを目標にするという形になると思います。後追いではなくて、さらにここも頑張れる部分を足したものが最終的な目標数値になればいいなと思います。やっぱり今の段階ではそうなりますね。なので政策的に何ができるか話し合いたいということになると思います。
- 藤野座長：現場の声をありがとうございます。
- 枝廣委員：実際の数値に基づいて議論をしていきたいのですが、数値がどれくらい出るのか。3月というのは決まっているとして、それに向けて私たちが数字に基づいて議論する余地がどのくらいあるのか。もう一つは日本が脱炭素を大きく打ち出してオリンピック・パラリンピックをやりますと、その運営計画が第二版で第一版の時に約束していた数値を出していきますと。そのときに何もやらなかった場合とこれくらい目指している数字があると思います。数値自体は積み上げだと思うのですが、外から見たときに現状はこうなっていて、東京はこれくらいを目指していきます。なぜならば、こう



いう対策でこのような手当てがあるからです。足りないところはこれから進めていきますという形で現状とゴールを出して対策を進めるという形の方がずっと分かりやすいと思います。3月末に第二版を出すとしたらゴールや対策の網羅性を私たちが議論できる余地はどれくらいあるのでしょうか。

- 藤野座長：どうでしょうか。
- 事務局：今日の前半部分にも同じ話がありまして、出来るだけ早くということと、今の段階だと年明けになってしまうということがあります。WG の中でも揉んでいただけるように進めていきたいと思います。
- 藤野座長：こちらの立場としては、持ち帰っていただき、いつ数字が出るかを検討してもらって、そのスケジュールに合わせて、会合をセットするしか方法はないと思います。数字がない所で議論できることがあれば続けますけど、数字が無い場合は、議論はしない。しないと言い切ったらあれなのですけど、その先は出来ないと思います。
- 勝野オブザーバー：気候変動分野の目標と指標の部分でおっしゃっていただいている数字というのは、一番右の欄のことだけでなく、指標の対策効果というところがあって、その右側に例の記載があります。例えばこの既存施設の活用割合というものが、どの程度だったら削減と結び付くのか。やることと結果との関係性が全く分からない。強度を上げていくといっても1を一生懸命100 やっても、10を10 やっても同じなのですが、そのあたりがわからない。強度を上げていく議論をしたときに、結果としての効果を示さないと、そこは原単位などの細かい話のベースがないと、議論できないかと思います。皆さんが言っている数字というのはどこまでのことを言っているのか共通認識を持っていただいたほうがいいと思います。
- 藤野座長：例えばフットプリントの BAU 削減対策のケースと、計算するにあたって、各項目に BAU と対策削減があるはずで。そこが少なくともそれぞれ明示されて、それが何トンの CO2 削減に相当するのかが分かると、大体のボリューム感はそれぞれ見えて来るので、その整理は最低限必要です。手元のところでも、どんな対策に基づいて BAU としての対策ケースの変化があるのかという説明が必要だと思います。さらに深掘すると、こんな可能性がありますよという所まで行ければいいのですが、ちょっとそこまで行けるかどうかは項目次第だと思います。
- 三浦委員：全部待っているとまた止まるので、少なくとも BAU と、それを計算したその項目があることと、原単位が見えれば良いと思います。そういうものが最低限必要だ

と思います。

- 勝野オブザーバー：項目がないとイメージが見えないですね。
- 事務局：次の WG の日程を決めるときに、いつぐらいまでに出せるかということも含めて、ご相談させてください。
- 藤野座長：数字の話はそういうことにして、それ以外に議論できるところを。気候変動分野の目標と指標案はそういったところで、対策 12 の相殺に挙げているレベル感はいいと思いますけど、ターゲットの書き方だったりとか、ひょっとしたらインディケータを書き直すのか分からないですけど、あの SDG s のいいところだけじゃなくて、ちゃんと SDG s の意味を捉えて整理していく必要があると思います。対策効果についてもできるだけ見ていただければ。5 のカーボンマネジメントの体制についてはご意見ありますか。
- 枝廣委員：カーボンマネジメント体制の部分で PDCA の A は改善案の提案やスパイラルアップなどですが、体制としてはどこが A をやるのですか。
- 事務局：事務局的な推進は持続可能性部だと思っています。また活動する機能のどこだとか、あとはそれにはリソースが必要でしょう、トップマネジメントを含めたところで、ご判断いただく項目もあるのではないかと。
- 枝廣委員：企業の場合の PDCA というのは、Do の現場がやっている成果などをもう少し高いレベルで見直しするということかと思います。事務局が Do のところを担当しているとしたら、体制的に誰が誰の責任でレビューして P につなげるか決めた方がいいと思います。
- 事務局：組織全体としての大きな PDCA、あとは、その部署に役割が定まっているのであれば、その部署での PDCA もあると思うので、そういうところも描いていけるようにしていければよいと思います。
- 枝廣委員：そのときに、DG や WG は体制内でどういう役割を担うのか、もしくは事務局だけの話で、DG や WG は関わらないのでしょうか。その辺はどう見たらいいでしょうか。
- 事務局：今は計画に議論をいただいているところなので、実際に計画が定まった後にど

う WG、DG で議論するかはまだ決めていないのですが、我々の希望としては、適宜進捗をご確認いただきながら進める方がいいかと思っております。そういうところにご協力いただければと思っております。

- 事務局：少し補足させていただきますと、本日参考資料で ISO20121 の説明資料をお配りしております。
- 藤野座長：簡単に説明していただいてもいいですか。
- 事務局：参考資料 1 に基づき、ISO20121 規格に準拠したマネジメントシステムの導入について説明
- 藤野座長：1 つ確認ですが、ISO20121 は大会全体をマネジメントするものであって、脱炭素 WG でカーボンマネジメントを我々のプロセスに沿ってやっているというのは、それは我々の方がより深くやっているという理解でいいですかね。
- 事務局：そうですね。まさにこういった形でご議論いただきながら、課題をしっかりと特定していくことも ISO のプロセスにございます。こういったことをご議論いただいていることが、ISO の一部にございます。カーボンマネジメントの 14 ページの表も当然 ISO に沿って、全体の中に位置づけられております。
- 藤野座長：さっき枝廣さんがおっしゃったように、主語をはっきりさせたり、対象をはっきりさせたりすることも徐々にやっていかないといけないと思います。誰がやるかということは項目だけ書いてあってチェックできていないので、15 ページ目の 6 番、適応策についてご意見ありますか。
- 小西委員：こちらに参考資料として大会の暑さ対策があると思うので、これを説明していただけますか。
- 事務局：参考資料 2 について説明
- 藤野座長：ご質問いいですか。
- 小西委員：先日の DG でも話題になっていましたので、このようなものがあつたらいいなと思いました。東京大会の適応の項目として、東京大会は、温暖化が進んでいる中でも、考えているということを示すものとして、実際には暑さ対策の他のところでキチ

ッとやっていることとして、一つ入って来るのでいいかなと思っています。それと同じように熱帯の蚊による感染症対策も、もちろんこれは医療の重要な事項ですので、もっと大きく検討されているかと思いますが、感染症対策、項目だけ入れていただいて、大会全体の対策として行っているということだけでいいので、ここに是非、気候変動対策として東京大会がレガシー、記録に残る所になればいいなと思っています。

- 藤野座長：事務局でご検討いただけますでしょうか。
- 枝廣委員：これまでロンドンでも適応対策として位置付けられていたのですか。温暖化対策として暑さ対策というのは非常に範囲がすごく狭い気がしまして、オリンピック・パラリンピックは会期が短いので、暑さ対策だけでは少ないという気がします。
- 事務局：一般的に適応策は幅広いのですが、大会となるとですね、暑さ対策に絞られるのではないかと思うのですが。
- 小西委員：暑さ対策が深刻ではなくて蚊が深刻というのも違うという気がしています。暑さ対策自体というのも医療にかかわることだと思うのですね。もちろん暑さ対策というのも適応にかかるところだけではなく、全体にかかることなのですが、温暖化に関連するところに入っていることが重要かなと。日本の場合は、環境省が適用計画を出してから、自治体も一斉に取り組むようになったと思っています。なるべく意義があるところが適応という言葉を使うことで普及啓発につながりますので。その意味でやっているのだけれども、言葉だけでも入っていていいかなと思っています。もちろん適応ではもっと優先される、洪水や内水氾濫や集中豪雨など、いろんなことがあり、都市計画としてやっておられると思うので、単にシンボルとしてやっているのかもしれませんが、オリンピックとして適応の一環としてこういったことを検討しましたと、記録があることが望ましいと思います。
- 枝廣委員：適応については、まだ意識が低いのでみんなの注目するところで取り上げてほしいです。そういう時に適応策が暑さ対策ということだけが伝わるのはマイナスだと思っています。コミュニケーションの問題かもしれませんが、会期の短いオリンピックでもしっかり暑さ対策をやっています、ということを伝えられたらいいと思います。東京オリンピック・パラリンピックが適用策として暑さ対策だけをやると狭いイメージが伝わってしまうので、東京都の優れた取組をきちんとしっかり知ってもらうことも大事だと思います。
- 藤野座長：暑さ対策のみならず、省エネや建物対策は、ずっと頑張ってきたところがあ

るので、同じようなトーンで伝えられたらいいと思います。

- 小西委員：作文の問題なのですかね。おそらく適応は、それぞれの地域によって違う項目で、例えば大都市の農業であれば農作物の高温障害などがあると思います。そうすると一番問題になるのは、おそらく排水氾濫。東京の地下鉄もそれぞれやっていますよね。こういったことも東京の取組としてオリンピックで評価されてもいいと思います。都市の適応としてはこういう取り組みが増えていくことが必要と言った文言があってもいいと思います。
- 勝野オブザーバー：小西さんがおっしゃったことが伝わるような主旨で書いてもらう必要があると思います。他で色々やっているけれど、参考情報で入れていることが分かるように。ここで議論しているスコープがそのようなことまで議論したと伝わってしまうと誤解を与えてしまう恐れがあります。他で色々やっていることだということを示すことが大事だと思います。
- 小西委員：元々適応策は防災計画にもあります。自治体の計画の前に県の対策であり国の仕事でもあります。それこそ FA のように多岐にわたる仕事なので、温暖化が対策として必要であることを認識しています、という意味合いが出るように。
- 藤野座長：今度の DG に向けて今日の議論を受けた項目立てや意味が伝わるものに直してほしいと思います。
- 事務局：書き方は色々あるかと思いますが、適応だと本当に範囲も広いので、コラム的に網羅的に書くこともあり得ますし、東京の対策を書くのもいいですし、案は一度お見せします。
- 藤野座長：項目としては最後の参加・協働、情報発信についてございますか。
- 枝廣委員：2つあります。1つは見える化の検討を行うということです。凄く大事なことで、見える化と自分事化は違うと思います。見える化することはすごく大事ですが、日本の環境意識や温暖化意識は下がっているんで、見える化しても分かる人は少ないと思います。見える化の努力と自分事化の努力は違うということで、東京オリンピック・パラリンピックを通じてしっかりやってほしいと期待しています。具体的な方策を盛り込んでいただきたいということです。あと、オフセットの色んなグレードはあるにしても、自分たちも参加したいということになれば素晴らしいと思っていて、森林だけでなく色々と考えられると思うのですが、具体的な話が出てきていないと思っていま

す。さっきと同じ質問ですが、計画第二版では、単に国民参加によるカーボンオフセットの実施という見出しだけなのか、それともその具体的な案の検討を含めてもう少し書き込んでいくのか。1年、2年でできる範囲は限られると思うのですが、具体的にできればいいと思っています。今後の見通しはどのような感じですか。

- 事務局：ここは現状としては、こういう書き方しかできていないんですが、第二版に向けて書けるところは書いていきたい、と思っています。
- 藤野座長：その時に、気になるのは、それは誰がやるのかということで、全部事務局が書いたから森林のこともやるのですかということ、そういったことをやりたいんだけど、やる人を募るためのプロセスをちゃんと作りますよということ、事務局がやるのか。具体的にこれをやるにあたって事務局ももちろん範囲・制約がありますからその中でできることを考えて、また、それに触発されて委員の方も委員なり関係者なりを束ねることでこういうことができますといった事を考えることも必要なのかなと。参加の仕組みの話ですよ。
- 小西委員：もう1つ別の資料を付けるのかもしれませんが、この中でいくと、相殺の資料が抜けており、6ページと7ページの間にパワーポイントが1枚いるかと思います。これまでの議論の中で Owned と Shared は厳格なクレジットで、Associated に国民参加など色々な協働の形を考えるとというのは、ほぼコンセンサスだと思ってよいのかなと思います。そうだとしたら、それをここに書いていただいた上で、7ページがあると。そうすると量が出てくることを信じて、国民参加のカーボンオフセットの議論がしやすいのかなと思っています。
- 三浦委員：オフセットは P13 の所だと思います。
- 小西委員：ここに制度に基づいたクレジットによるオフセットと書いてありますが、制度とは何のことか分かりにくいので、Owned と Shared については、例えばこれから出すガイドラインに基づいたクレジットによるオフセットと書いていただきたいです。今までの議論の結果、一応それがコンセンサスかと思いますので。
- 藤野座長：6ページと7ページの間というよりは、目標の12にオフセットが入るという整理でいいですね。それならば、せっかくなので、小西さんにご用意いただいたご提案を説明していただけますか。
- 小西委員：これは Owned と Shared Emissions に限ったオフセットの調達基準案の提

案です。主にガイドラインとクレジットの割引の 2 つの提案がありまして、ガイドラインの方の 5 つは、東京都のクレジットも JCM も森林を除いて、全て当てはまるものだと思っています。追加性とダブルカウントを避けるために記録が残っていないといけないということと、独立した監査機関が必要であるということと、持続性と SDGs への貢献のような形で割とざっくりとしたものですが、CDM やパリ協定 6 条 4 項の中のオーソドックスなものを抜き出しています。これを Owned と Shared とするということだけを決めておけば、Associated はかなり緩くてもいいのかなと。もちろん、誰がやるとかどういった参加方法かということはあると思いますが。ここさえ押さえておけば、あとは議論がしやすくなると思います。もう 1 つが割引ですね。もし、zero carbon ということ謳うのでしたら、100%クレジットで相殺となってしまうと、これは相殺であって、減らすということにはならないので、東京大会として、30%が適当かは分かりませんが、何%か割引します、つまり充当したクレジットの量よりも、実際には東京大会は相殺を使ってでも減らしたということが言えるように割引を使えばよいと思います。どちらにしても、JCM クレジットを除いて、全て国内クレジットになる前提だと思います。これをやらない限りは、国際的にはなかなか認められないかなと思います。最後のものは、こちらの希望です。上はオーソドックスなものです。

- 藤野座長：今初めて見た人もいますが、これに対してご意見とかご質問とかあれば。
- 事務局：1 点事務局から。前回の第 6 回 WG の中で、オフセットの話をさせていただいて、今、小西委員がおっしゃったような、しっかりしたところにしっかりしたものを充てるという原則は共通認識であったかと思いますが、Owned の中にも色々に関連性の強いものと、そうとも言い切れないものというようなグラデーションがあるという議論があったと思うので、Owned と Shared は、これしか駄目というよりは、強度に応じた使い分けもあるという話があったと認識しています。
- 小西委員：それはあると思います。現実世界はいつもそうですから。ただ、これが表にあることが重要かなと思っています。
- 藤野座長：原則としてということで。
- 小西委員：Owned と Shared は原則としてガイドラインに沿うものとするというように。他の調達もそのような感じの言葉が入っていますよね。
- 藤野座長：そこの兼ね合いが。他にご意見ありますか。

- 三浦委員：実際には国内でのクレジットはJクレなどがありますが、既存で何かあるんでしょうか。
- 小西委員：それ以外だとボランタリークレジットしかないと思います。
- 三浦委員：ボランタリーだとあまり検証を受けたりしていないかなと思いました。
- 小西委員：例えばゴールドスタンダードがあります。量も十分あります。
- 三浦委員：日本国内ですか。
- 小西委員：海外です。ちなみにパリのオリンピックは全部海外ものでゴールドスタンダード、しかもボランタリーに限っているんですね。東京はJクレとか考えると、それは無いなと思って削ったんですが。
- 三浦委員：30%割引の意味がよく分からなかったのですが。
- 小西委員：例えば、オリンピックが100万トンだとしたら、100万トンのクレジットを買ってくるのではなく、130万トンを買ってきて、30%は使わないというような。
- 三浦委員：ある意味カーボンポジティブみたいな見た目になるということですかね。
- 小西委員：変な言い方ですけど、ネガティブエミッションを目指すというような。ヨーロッパのイベントなどで割とやっています。これはCDMクレジットのキャンセレーションの話から出て来ていると思います。
- 三浦委員：それは不確実性の部分をバインドするためにやるのではなくてということですか。
- 小西委員：はい。これは大体的場合は、イベントで使われるものなので、相殺だったら地球的にみたらゼロですが、そうではなくて、減らしましたということをストーリーにするためにという感じですね。
- 三浦委員：以前の議論に戻るのですが、クレジットを1.3倍を集めなければいけないとなると、集めることに奔走してしまう部分があるので、少し議論が必要かなと思います。



- 小西委員：最後の部分はいくまでも WWF インターナショナルの意向です。因みにパリはこれをやります。
- 藤野座長：環境省はどうですか。
- 飯野オブザーバー：色々な可能性はあると思うのですが。
- 藤野座長：色々な可能性とはどういうことですか。
- 飯野オブザーバー：Jクレも JCM も基準は満たしているので、我々としては使っただけなら有り難いです。後は条件ですね。
- 藤野座長：私なりの解釈では、こうやって小西委員さんを書いていただいたのは、Jクレや東京都のクレジットとか、何らかの基準に基づいて、それをクリアしていることを持続可能性計画の中に位置づけておくことが世界に対して品質保証になると言えるので、ガイドライン的なものはきちんと示しておいた方がよいというご提案ですか。
- 小西委員：はい。その通りです。
- 藤野座長：であれば、5項目のようなものを、これはグローバルスタンダードであるし、これに則るものという風にしておいた方がクリアですよ。
- 小西委員：明確になると思います。Associated はこれに則っていませんということも。
- 藤野座長：Owned のグラデーション問題はどうしますか。
- 小西委員：それはあくまでも説明がつけばよいと思います。
- 藤野座長：そうですね。原則という言葉が入るなら。
- 事務局；三浦委員に確認したいのですが、東京都の排出権についてちょっと気になっているのは、カーボンクレジットの二重カウントの部分です。東京都の排出権キャップ&トレードはもともとキャップを入れて、これをローカルでやられているもので、二重カウントの規定は見直し中なんですかね。完全にキャンセルして我が国の CO2 削減量全体のオフセットをしたというのを求めるのかそれとも、そうでなくてもいいのか。私なんかそうでなくてもいいと思っているんですが。その辺は小西さんがどこま

で追及されているか。

- 小西委員：正直、国内クレジットである限りにおいては、それをキャンセルションして日本の排出量としてカウントしないところまでを求めたいと思っています。ただ現実を考えるとそこまで求めなくてもいいかなと思うんですけど。そのためのゆえに、「全て国民クレジット」というのは避けたいなと思っています。そこは環境省さんからJCMをいただきたいと思っています。JCMクレジットだったならば、少なくともクレジットの発生場所が日本ではないので、そのところで、国際クレジットという説明はつくと思います。そこは是非キャンセルションはしてほしいと思うんですけど。それを少なくとも日本の排出削減に使うことは、ないと思うんですが。それと東京都さんのクレジットは取引が発生してないクレジットだとお聞きしました。
- 三浦委員：国内クレジットの交換の仕組みはJクレと同様です。まだ仕組みは無いのですけど。同じオフセットクレジットとしては意味がないということで理解しています。
- 小西委員：その手続きは、どう思われますか。
- 三浦委員：キャンセルションで、要は国別目標から抜く話ですよ。それはもうオフセットは国内クレジットからでもオフセットしていますから、オリンピックは確かに国際的な大会ではありますけど、国ではなくて、日本国の中でやっているものですので、その、オフセットの概念を崩すと、他のスポーツ大会のオフセットもみんなそうになってしまうので、それは本来の姿ではないと思っているので、そこは国別の目標の話とは切り離すものかと思っていますし、従前のワーキングでも意見をいただいていたと思うので。これは、再確認という形かと思いますが。
- 小西委員：本当はそうすべきだとインターは言いますが、実際に現実を考えると Owned、Shared にこれを充てるというところまで合意が取れればいいと思っています。
- 藤野座長：この件について何かありますか。DGにどう入れ込みますかね。場合によっては13ページ目の12番の相殺については、オフセットの種類によってガイドラインをしっかりと検討してもいいかもしれませんね。
- 小西委員：ガイドラインを作成する予定があるということまで書いてもいいと思います。ここに入ってもいいのかなと思うので、5つはオーソドックスなので、もしご同意いただければ、これがそのままここに入ってもいいのかなと思っています。割引はものすごく意見が分かれるかと思うので。あと Owned、Shared、Associated の考え方、

その2つまでが運営計画に入ればいいかなと思います。

- 三浦委員：森林のJクレの方はちょっと微妙という話がありましたが、そこは誰がどうやって切り分けるのでしょうか。
- 小西委員：これは調達コードと一緒に組織委員会がということになると思うのですが。
- 三浦委員：それは切り分け可能なものなのですか。森林が全部ダメというわけではないのですか。
- 小西委員：実はこの書き方でいくと、森林の吸収源はだめなんですね。ですので、森林クレジットの方は Associated の方に。本当は CDM が使えるので。
- 事務局：今、吸収源とおっしゃっているのは、森林以外だとどういったものを想定されていますか。
- 小西委員：吸収源は、今はほとんど森林クレジットです。
- 事務局：通常の吸収源系のJクレジットをまるごとちょっと否定してしまうのはちょっとどうなのかなと思うのですが。
- 小西委員：イベントに対しては、あくまでも量の問題かなと思っていました。もし、どうしても森林クレジットが入らないと間に合わない、というのもあくまでもイベントなので、おそらく選んで、このクレジットがいいですとやっていくと思うんですね。で、そこからいくと、選べるならば森林クレジット・吸収源クレジットでないほうがいいかと思うのですが。
- 事務局：そこは組織委員会として、二重性などは理解しますし、モノの本質も分かるのですが、今の議論は CO2 排出削減量の中身の比較の話になってしまい、そこには、それぞれの方の思いがありまして、組織委員会としては公平に、色んなお考えはあるかと思いますが、Jクレジットもそこに差を設けているかというのと、設けていないです。となりますと、私ども民間団体として、国の制度設計上差が設けられているのならいいのですが、そこにもし差を設けるなら合理的な理由をつけないといけないと思います。
- 飯野オブザーバー：オリンピックと関係がある理由で選ぶのが筋だと思います。クレジットのなかで、もし選ぶとすれば。例えば東京都と何か関係がある、パラスポーツと関

係があると、オリンピックの時にこれを選ぶのは分かるようになると思うのですが。森林吸収源に対する、使われ方、ポリシーのようなものはオリンピックだからという話が全くないから、それは WWF のポリシーだと思います。それは、ちょっと分けた方がいいと思います。

- 小西委員：永続性が担保されなければならないというのは、30年なら30年後担保されるならいいですが、吸収源クレジットがすごく使いづらいものになってしまっているのですね。ですので、全ての吸収源クレジットがだめという意味ではなくて、条件を満たせば OK ということです。吸収源クレジットは、もともと CDM クレジットに、ボランタリークレジットの条件を付けたものなので、これは CDM クレジットだと私は思っているんですけども、イベントでききほど言った国内の中での削減を通して日本の目標と区別がつきづらいので、イベントでは永続性のある使い勝手のいいクレジットであるべきかだと思います。ただし、すごくここを強調するというか、これは調達コードの議論でもそうですが、原則として書くことと、実際に市場で望ましいこととは違ったやり方になると思うんですね。ですので、原則としてという所に残していただくか、そこ自体をカットしてしまうのかは議論ですが。もう1つ HFC や、そういったものも排除しない書き方なのですね。ですので HFC クレジットもオリンピックで使っているのかなというところもあるかと。原則は原則で、実際にオリンピックとして何のクレジットがふさわしいかはまた違ってくると思います。
- 藤野座長：この5つを本当にやるかどうかは議論が必要なので。せめてガイドラインの作成ということくらいは書いていいのかなと。東京オリンピック・パラリンピックにふさわしいかどうかは検討したらいいかなと思います。
- 飯野オブザーバー：うちのクレジット担当にも聞いてみます。
- 事務局：調達コードもいろんな方のご意見を基に作ってますので、この場ですぐにということは難しいと思いますので検討させてください。
- 藤野座長：ただ、ガイドラインは作る方向性はあったほうがよいですね。
- 小西委員：Owned、Shared のガイドラインをつくることはよいと思います。
- 事務局：原則、Owned、Shared の分け方というのは。
- 藤野座長：Owned、Shared のガイドラインは作る方向で。これで一通り資料の説明は

いただきました。一通りの最初から最後まで議論はしましたが、お気づきの所はありますか。

- 枝廣委員：今の段階では数字を待つしかないと思います。
- 小西委員：タイムラインを教えてください。
- 事務局：DG が来週の金曜日ございます。
- 藤野座長：委員会が来月 16 日ですね。
- 事務局：そうですね、1 月の 15 日か 16 日に。
- 事務局：まだ開催は決定していませんが、確認します。
- 藤野座長：考えられる今後の予定を教えてください。
- 事務局：パブコメを当初予定の発行直前の前にラフな段階で今月後半から来月のどこかにスタートして、それらを受けてまたワーキングの皆さんに共有いたします。また、DG でもお話しましたがカーボンと資源については大分議論も進んでいますが、残りの分野については、人権等があります。議論というよりは、我々の方が充分作れていないというものがありますので、まずそこを優先的に進めていく必要があるのかなと。それらを整えた上で、3 月に向けて、鋭意進めていくことなのかなと思います。
- 事務局：あと不足としては、IOC の方にしっかりと意見をもらうというものがございます。
- 藤野座長：IOC からのコンサルテーションのようなものは。
- 事務局：COCOM というものが来週あります。
- 藤野座長：他には何か持続可能性に関してありますか。
- 事務局：数か月に 1 回 IOC の担当者が来て進捗確認するとともに、テレカンで 3 週間ぐらいに 1 度ずつやっています。

- 藤野座長：それを考えるとパブコメを12月のDGが終わり次第かけて2週間くらいですか。年内にパブコメをかけて、年明けにはその結果が少し整理されている、それを受けながら数字があって、それに基づいてのWGが必要かもしれません。もう一回パブコメするというということでDGもするということですか。
- 事務局：そうですね。パブコメの後、DG、委員会がございます。
- 藤野座長：DGの前にWGがありますか。
- 事務局：はい。
- 藤野座長：積み残しというか、フットプリントの数字の話とか、オフセットの話もやっていかないといけないと思います。カーボンマネジメントのところも。さっき三浦さんがおっしゃっていただいたようなところで完全にできた話じゃなくていいんですけど、ここまで整理できましたみたいなのを徐々に見せて欲しいと思います。そうやって、次のDGに持っていけるものを作ってDGが終わったらまたパブコメをして、そのパブコメを受けてまたDG・WGをやるかどうか相談だと思います。
- 事務局：そうですね。中身によってどれくらい変更があるかということ。
- 藤野座長：そうですね、議論しないといけないかどうか。おおまかにはそんな形なので、そうですね、次のWG、まあ、その、さっきの数字なければできませんよと言ったんですけど、1月中旬とか遅くても下旬には1回やらないといけないと思います。
- 事務局：それはフットプリントの中身があってということですかね。
- 藤野座長：はい。完全でなくともいいですけど、検討の結果を見たいですね。そのような感じですかね、我々委員の日程も後で設定しましょうか。
- 小西委員：ここで日程決めた方がいいですね。予定通り3月に出す予定ですか。
- 事務局：今はその前提で考えております。
- 藤野座長：そうするとフットプリントの数字が出ないと何も出来ませんね。3月に出ることが大前提で、我々もそれに最大限ご協力したいと思います。せっかくなので、議事進行にはないんですけど、手島局長にご感想を一言いただければ。

- 事務局：熱心なご議論ありがとうございました。委員の皆さんの活発なご議論、ご意見伺っていて大変勉強になりました。今、計画第一版を読み込んでおりますが、今まで専門外だったこともありまして、東京都の環境の計画ですとか白書ですとか国のものも読み込んでいる最中です。言葉も勉強している最中です。そういう意味では大変恐縮なのですが、すぐに追いつきたいと思います。3月末という期限もありますので、それに間に合うように作業の方を進めていきたいと思います。冒頭申しましたように、持続可能性部が総務に来たというのは、横串を刺してですね、組織委員会内も関係 FA たくさんありますし、外にも、国を始め東京都、ステークホルダー、スポンサー、NGO の団体さんたくさんありますので、そことの連携協力は不可欠だと思っておりますので、十二分に肝に銘じて、より持続可能性がなされた、誇れるような 2020 年大会にしなければいけないと思っていますので、今後とも引き続き宜しくお願いします。是非ここで色々質問をして議論をできるようにすぐになりたいと思っていますので、宜しくお願いします。
- 藤野座長：進行にないことをしてしまって恐縮ですが、ロンドンやリオでも持続可能性の位置付けはかなり高かったと思います。ほとんどがトップの直轄にあったものでしたので。是非そこをつないで実質的に皆さんが働きやすくなるようにやってもらえればと思います。
- 事務局：ありがとうございます。
- 藤野座長：それでは最後お返します。
- 事務局：次回の日程は CFP を踏まえて調整させていただきたいと思います。本日は貴重なご意見たくさんいただきまして、ありがとうございました。また次回宜しくお願い申し上げます。
- 藤野座長：ありがとうございました。

以上